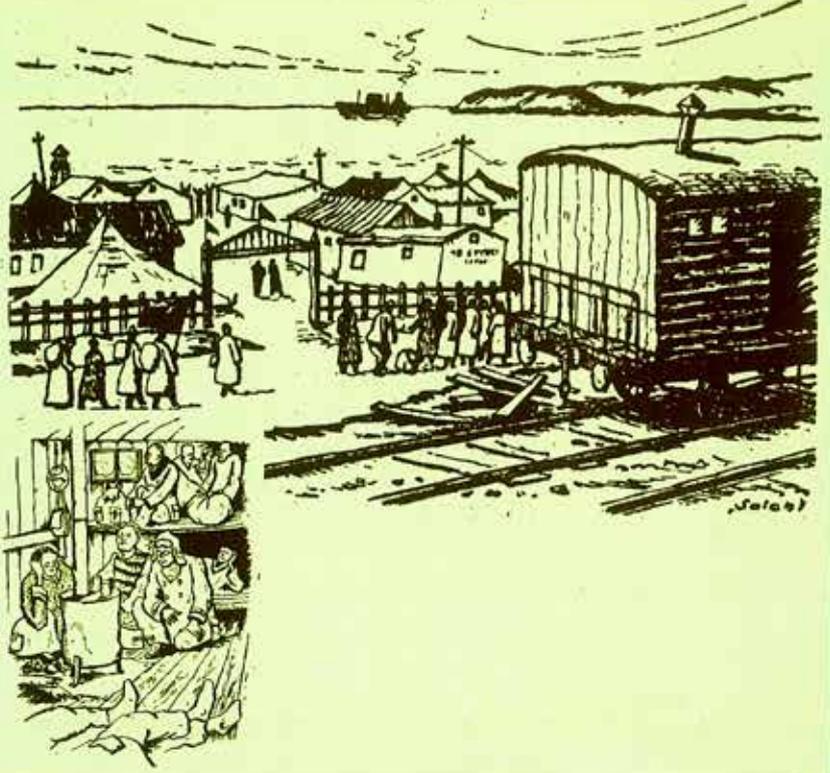


生死の狭間、極限の状況に生きる

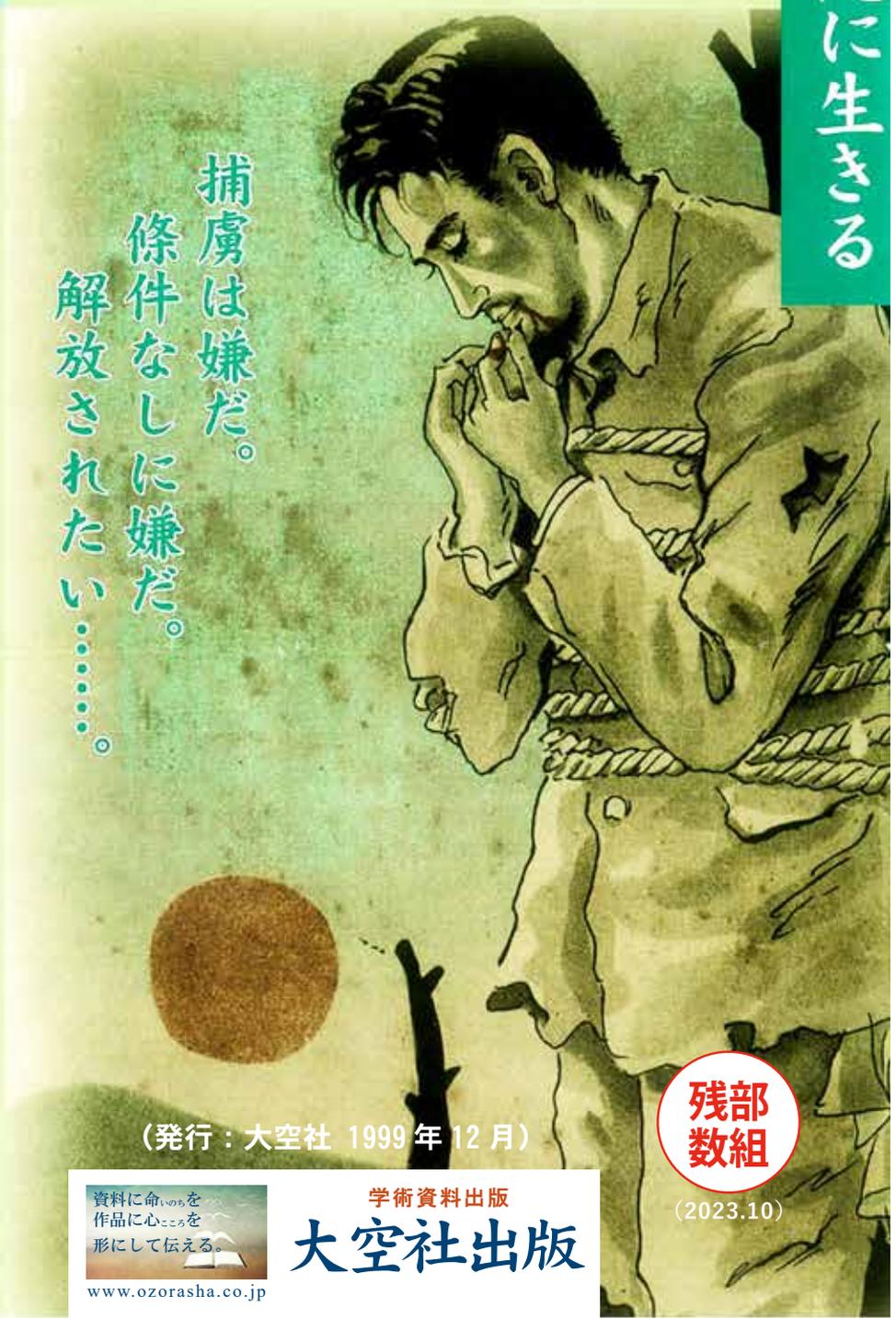


叢書 全10巻

俘虜・抑留の眞実

山下武監修

捕虜は嫌だ。
条件なしに嫌だ。
解放されたい……。



(発行：大空社 1999年12月)

残部
数組

(2023.10)

資料に命のちを
作品に心こころを
形にして伝える。

www.ozorasha.co.jp

学術資料出版
大空社出版

生きてて虜囚の辱を

はずかしめ

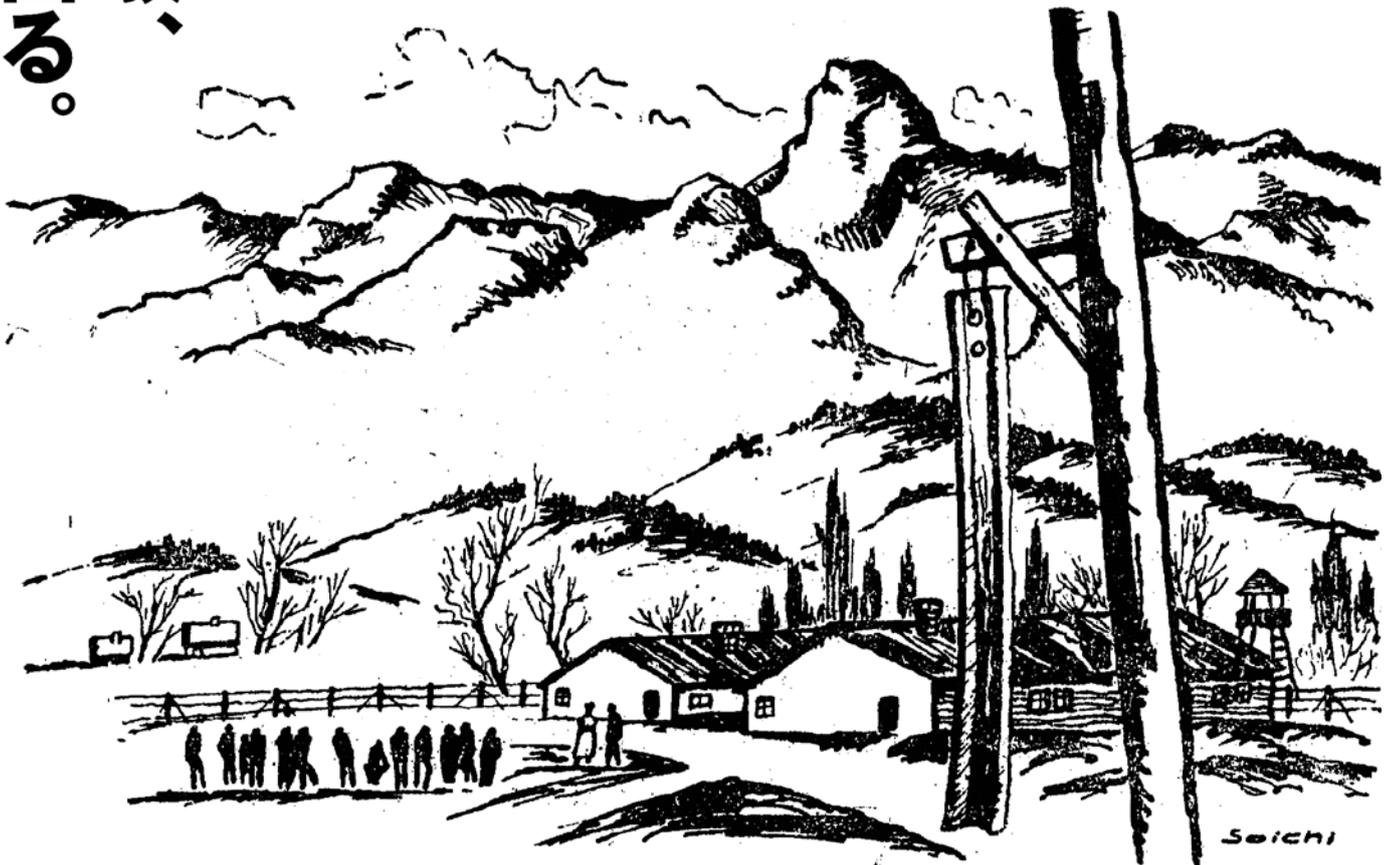
受けるなかれ

終戦からすでに五十四年。戦争体験者の証言はますます貴重なものとなつてゐる。戦争記念館に千人針や鉄兜を陳列するのも結構だが、戦争の悲劇を伝えるためには体験者の証言ほど貴重なものはない。そのためにも急がれるのが、戦争の悲惨さを綴つた出征兵士のドキュメントの蒐集と保存である。今日も終戦記念日や十二月八日がちかくなるとその類の本が書店に並ぶが、同じ体験記や回想にしても、何十年も経てから薄れた記憶を基に執筆したようなものは一次的資料とは言いがたく、「鉄は熱いうちに打て」という諺があるごとく、終戦直後に出版された体験者の記録に勝るものはない。特に貴重なのが粗悪な用紙に印刷された終戦直後から昭和二十五年位までの捕虜・抑留引き揚げ記だ。当時、一種のキワモノ出版として、粗悪な用紙と焼け残りの印刷機で泡沫出版社から続々刊行をみたこの種の文献にも、いま改めて発掘、再評価の時期が到来したようである。

山下武「解説」より

生々しい手記——赤裸々な体験、

過酷な運命が行間から溢れ出る。



Seichi

厳しい折は鐘の音がキーンと鳴るような普段と異なった音色を出す。大気が凍って音の振動が變るのではないかと思われるほどである。

九日作業の關係で他の收容所へ轉属する者が出來た。酷寒のさ中知らぬ收容所へ出て行く戦友を送ることは一抹の悲哀と惜別の念に堪えない。

新春と言えど眞寒し作業にぞ出で行く戦友よ健けくこそ

精神分裂症患者

新たに編入替があつた。小隊長は應召當初擲弾筒を教育してくれた班長で、はからずも又シベリヤで一緒に起居することになつたのだ。此の小隊に若い精神分裂症患者がいる

夜もすがらあらぬ言の葉口ばしする若者悲し新春知らず

暖い頃は水波動務者の仲間に入つて炊事の手傳いをしていたが、最近病気が昂じてか、一人前の作業は出來ない。何時の間にか柵外に出ることさえあるので誰か一人監視する必要で柵外に出れば銃殺されても致方ない。我々の言うことが全然わからないのでもな普通通り振つている。絶えず何か口ばししている。亂暴をしないから病院に入れを見てやつているのであるが、夜間は一寸困りものである。本人は一向平氣で作業



感涙
むせぶ

戦争の悲惨さを綴る

怖るべき捕虜・抑留の実態

戦争体験を

風化させてはならない！

組見本

このこの操作は経験のない人には解らない重労働だ。かうして三日目の午後漸くウランパートナーに到着。

てのこの操作は経験のない人には解らない重労働だ。かうして三日目の午後漸くウランパートナーに到着。

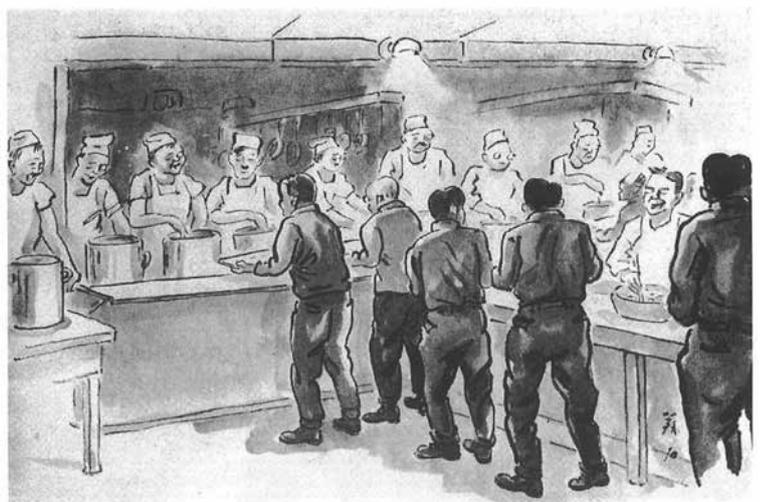
十、石田隊を暴露する

その暴状振り

十二月二十二日 泣く子も黙るといはれる石田隊に編入され、捕虜の作業のうち地獄の中の地獄といはれる石山で石切作業に従事することになつた。

同隊は階級意識甚だ強く、隊長は天皇陛下、將校は殿様、下士官は家來、兵隊、民團は下郎の取扱ひを受ける。

しかも彼石田は、日ソ開戦當時馬上ゆたかにおさまり返つていつたところ、ソ連軍の侵入に接するや色を失い、早速馬より飛び降り、手綱をとれる兵隊に己れの陸軍大尉の服をオツかぶせて部下らしく装い、部下のギセイによつて命拾ひをしたという、ダキすべき曰く付の破廉恥漢なることを隊員より聞く。



叢書 俘虜・抑留の真実 全10巻・別冊1

山下 武 監修・解説 [大空社 1999年12月刊]

●収録内容

1 赤い牢獄 菅原道太郎 著 (川崎書店、1949・昭和24年)

ソ連占領下の樺太で、反ソ分子として捕らえられた著者は、ハバロフスクへ移送後、重労働15年の判決により「赤い牢獄」を体験。一般兵士や職業軍人の目にふれない貴重な見聞を報告する。

2 夢はウラルに消ゆ 田中鈞一 著 (西日本新聞社、1949・昭和24年)

若き日、マルキシズムに夢を託した著者は、過酷な抑留生活のなかでしだいにソ連に幻滅する。帰国後直ちに筆を執った「見たままの記」。ソ連は「秘密と暗黒の国であり、独裁と泥棒の国」であった。

3 捕虜実話 しらみの歌 宮永次雄 著 (朝日書房、1950・昭和25年)

宮古島で終戦を迎えた著者は、昭和21年1月、米軍俘虜として沖縄本島の収容所に送られる。意外にもそこは、日本の軍隊からは「予想もできない自由の獄舎」であり、日本は負けるべくして負けたことを痛感する。

4 抑留所生活記 佐々木さぶね 著 (羅府書店、1950・昭和25年)

在米日本人は、誰一人日米開戦を望んでいなかったが、開戦の日から「敵国外人」とされ、逮捕されたり、投獄・抑留をよぎなくされた。開戦前夜から抑留所生活6か月の克明な記録と貴重な資料・写真を収録。

5 シベリヤ抑留記 瀬野修 著 (虹有社、1947・昭和22年)

最も早い時期に刊行されたものの一つで、シベリア抑留者の状況を留守家族に伝えたいとの思いから、所持品検査の網をくぐり抜けて持ち帰ったメモに基づいて書かれている。

6 高砂丸に泣く 塚本義隆 著 (時事通信社、1949・昭和24年)

副題に「新聞記者のソ連抑留記」とあり、満洲から引き立てられた著者の中央アジア、アルマ・アタでの3年間の抑留生活が綴られている。運命を共にした元満鉄調査部小林宗一氏の挿絵入り。

7 レムパンの星 日比野清次 著 (香柏書房、1949・昭和24年)

捕虜となった8万の将兵がマレー半島の先に位置する無人島に送られ、飢餓のなかで開墾によって自給自足の生活を追求する。本書は大佛次郎や佐藤春夫の小説の素材にもなったといわれる。

8 シベリヤ捕虜物語 栗原康誉 著 (黎明社、1949・昭和24年)

現地召集された著者は、「生きて虜囚の辱めを受けず」を信じ、二度自決しそこね、逃亡にも失敗する。入ソ当初の「生き地獄」をくぐり抜けて見えてきたのは、抑留後も温存された旧軍隊組織の横暴であった。

9 生ける屍の記 沖野亦男 著 (東方書房、1946・昭和21年)

「在支20年」の海軍大佐である著者は、搭乗機の敵地不時着により虜囚となる。重慶および米国での2年間の捕虜生活のなかで、日本の俘虜国際協定不参加の愚かしさ、軍隊の独善性に思いを致す。

10 暁に祈る 有賀藤市 著 (蒼生社、1949・昭和24年)

副題に「吉村隊生存者の真相記・外豪抑留者の生還記録」とある。帰国して静養1年余、吉村こと池田の健在を知り、憤激の情を新たにして著者が「この目で見、この身体で体験した事実」を記録する。



収録原本書影

残部
僅少

(2023.10)

リバイバル〈外地〉文学選集 全20巻

山下武監修・解説 [大空社 1998-2000] A5判・上製

■外地の様子、そこに住む人々の生活を克明に描写した作品群。歴史資料として貴重。

- | | | | |
|----|-----------------------------|--------------------|------------------------------|
| 1 | 上海夜話〈井東憲、昭和4〉 | 440頁 4-7568-0397-0 | 12,000円 |
| 2 | ハルピン女〈郡司次郎正、昭和7〉 | 440頁 4-7568-0398-9 | 12,000円 |
| 3 | 男装の麗人〈村松梢風、昭和8〉 | 390頁 4-7568-0399-7 | 11,000円 |
| 4 | 満洲〈中西伊之助、昭和9〉 | 460頁 4-7568-0400-4 | 13,000円 |
| 5 | 駒鳥日記〈矢田津世子、昭和16〉 | 270頁 4-7568-0401-2 | 7,000円 |
| 6 | 遠東の民 第一部・趙君瑛の日記〈鈴木英夫、昭和16〉 | 360頁 4-7568-0402-0 | 10,000円 |
| 7 | 遠東の民 第二部・陳一族の手紙〈鈴木英夫、昭和17〉 | 340頁 4-7568-0403-9 | 9,000円 |
| 8 | 遠東の民 第三部・ある中尉の手記〈鈴木英夫、昭和18〉 | 250頁 4-7568-0404-7 | 6,000円 |
| 9 | 朝鮮・台湾・海南諸港〈野上豊一郎・彌生子、昭和17〉 | 350頁 4-7568-0405-5 | 10,000円 |
| 10 | 黄河〈宮本幹也、昭和18〉 | 440頁 4-7568-0406-3 | 12,000円 |
| 11 | 汝等の背後より〈中西伊之助、大正12〉 | 410頁 4-7568-0407-1 | 11,500円 |
| 12 | 上海〈村松梢風、昭和2〉 | 360頁 4-7568-0408-X | 10,000円 |
| 13 | 赤い魔窟と血の旗〈井東憲、昭和5〉 | 280頁 4-7568-0409-8 | 9,000円 |
| 14 | 発声満洲〈郡司次郎正、昭和8〉 | 380頁 4-7568-0410-1 | 10,500円 品切 |
| 15 | 北京〈阿部知二、昭和13〉 | 290頁 4-7568-0411-X | 9,000円 |
| 16 | 満洲紀行〈島木健作、昭和15〉 | 360頁 4-7568-0412-8 | 9,500円 |
| 17 | 黒龍江〈竹森一男、昭和16〉 | 240頁 4-7568-0413-6 | 7,000円 品切 |
| 18 | 南洋紀行〈丸山義二、昭和17〉 | 260頁 4-7568-0414-4 | 8,000円 |
| 19 | 満洲少女〈小泉菊枝、昭和17〉 | 310頁 4-7568-0415-2 | 9,000円 品切 |
| 20 | 陳夫人〈庄司総一、昭和19〉 | 300頁 4-7568-0416-0 | 16,500円 品切 |

上海叢書 全12巻

山下武・高崎隆治監修・解説 [大空社 2002.1] A5判・上製

4-283-00197-X 揃 120,000円

■大陸への玄関口、世界の注目を集め租界が栄え、日本も深く関わった国際都市上海を立体的に捉えるための基本文献集。

- 1 上海史話 附・上海史文献解題〈米澤秀夫、昭和17〉
- 2 上海年鑑 1926年版〈上海日報社、大正15〉
- 3 支那研究第十八号 上海研究号〈小竹文夫・坂本義孝他、昭和3〉
- 4 昭和七年 上海事変誌〈上海居留民団、昭和8〉
- 5 上海通信〈木村毅、昭和12〉
- 6 松井翠聲の 上海案内〈松井翠聲、昭和13〉
- 7 上海の歴史 (上海租界発達史)〈H.ポット著 / 帆足計・濱谷満雄訳、昭和15〉
- 8 大帮の都 上海〈A.O.ハウザー著・佐藤弘訳、昭和15〉
- 9 上海〈谷川徹三・三木清他、昭和16〉
- 10 上海人文記 映画プロデューサーの手帖から〈松崎啓次、昭和16〉
- 11 思い出の上海〈村松梢風、昭和22〉
- 12 十二月八日の上海〈西川光、昭和18〉

残部
数組

☆〈セット分売不可〉ですが、一部の巻は分売可。詳細お問合せください。

* 表示価格は本体 (税別)

学術資料出版

大空社出版

www.ozorasha.co.jp

東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032)

TEL:03-5963-4451 FAX:03-5963-4461

eigy@ozorasha.co.jp

ふりよ・よくりゆう

叢書 俘虜・抑留の真実 全10巻・別冊1

山下 武 監修・解説 [大空社 1999年12月刊]

■終戦直後から昭和25年までの日本人捕虜・抑留者のドキュメントを精選復刻。シベリア・中国大陸・東南アジア・アメリカでの過酷な体験を、記憶が風化しない時期に書き留められた貴重な記録。

- 1 赤い牢獄 菅原道太郎 著 (川崎書店、1949・昭和24年)
290頁 4-283-00152-X 定価 6,050円 (本体 5,500円+税)
- 2 夢はウラルに消ゆ 田中鈞一 著 (西日本新聞社、1949・昭和24年)
220頁 4-283-00153-8 定価 4,950円 (本体 4,500円+税)
- 3 捕虜実話 しらみの歌 宮永次雄 著 (朝日書房、1950・昭和25年)
260頁 4-283-00154-6 定価 6,050円 (本体 5,500円+税)
- 4 抑留所生活記 佐々木さぶね 著 (羅府書店、1950・昭和25年)
610頁 4-283-00155-4 定価 13,200円 (本体 12,000円+税)
- 5 シベリヤ抑留記 瀬野修 著 (虹有社、1947・昭和22年)
200頁 4-283-00156-2 定価 4,400円 (本体 4,000円+税)
- 6 高砂丸に泣く 塚本義隆 著 (時事通信社、1949・昭和24年)
190頁 4-283-00157-0 定価 4,400円 (本体 4,000円+税)
- 7 レムパンの星 日比野清次 著 (香柏書房、1949・昭和24年)
220頁 4-283-00158-9 定価 4,950円 (本体 4,500円+税)
- 8 シベリヤ捕虜物語 栗原康誉 著 (暁明社、1949・昭和24年)
220頁 4-283-00159-7 定価 4,950円 (本体 4,500円+税)
- 9 生ける屍の記 沖野亦男 著 (東方書房、1946・昭和21年)
220頁 4-283-00160-0 定価 4,950円 (本体 4,500円+税)
- 10 暁に祈る 有賀藤市 著 (蒼生社、1949・昭和24年)
180頁 4-283-00161-9 定価 4,400円 (本体 4,000円+税)

別冊 (解説) *全巻揃い購入者に配布 (B6判・36頁)
山下武「風化させない戦争体験の記録」

叢書 俘虜・抑留の真実 全10巻・別冊1

A5判・上製 4-283-00162-7

揃定価 58,300円 (本体 53,000円)

残部
数組

(2023.10)

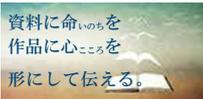
☆原則として〈セット分売不可〉ですが、
一部の巻は分売可。詳細お問合せください。

(2023.11)

学術資料出版

大空社出版

東京都北区中十条 4-3-2
(〒114-0032)
TEL:03-5963-4451
FAX:03-5963-4461
eigyo@ozorasha.co.jp



www.ozorasha.co.jp